

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
					アウトプット
(1) みんなが支え合う豊かなコミュニティづくり					
① 地域ごとの小地域福祉計画づくり					
A 地域座談会等の開催支援	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>増進型地域福祉の考え方を取り入れた課題の話し合いから理想とする状態の実現に向け、地域の多様な主体が話し合う地域座談会を開催</li> <li>対象：1年次－南住吉・山之内・清水丘 2年次－東粉浜・長居・苅田・苅田南</li> <li>地域の課題解決策・地域福祉推進策を地域の多様な主体が集まり話し合える場の定着をめざしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次開催：3地域⇒0地域</li> <li>2年次開催：4地域⇒0地域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域座談会の参加者にアンケートを実施し「地域の福祉について見直す良いきっかけとなった」と感じた参加者の割合：80%以上</li> <li>⇒コロナ禍で地域座談会が開催できず、参加者に対するアンケートは実施できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、1年間緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出をされており、地域の多様な主体が参集し、地域の課題やニーズ、そして理想の姿を話し合う場である地域座談会は開催できなかった。</li> <li>東粉浜地域において地域座談会コアメンバー会議を開催。令和元年度開催した地域座談会での議論に基づき、地域の子どもたちの顔が見えるイベント“ハロウィンナイト”の実施に向け検討が進められた。</li> </ul>
	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>【令和3年度と同様】</li> <li>対象：1年次－南住吉・山之内・清水丘 2年次－長居・苅田・苅田南</li> <li>【令和3年度と同様】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次開催：3地域⇒1地域</li> <li>2年次開催：3地域⇒0地域</li> <li>イベント開催：1地域⇒1地域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域座談会の参加者にアンケートを実施し「地域の福祉について見直す良いきっかけとなった」と感じた参加者の割合：80%以上</li> <li>⇒コロナ禍で地域座談会が開催できず、参加者に対するアンケートは実施できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置こそ発出されなかったが、行動制限がかけられていたことから地域座談会が開催できなかった。</li> <li>東粉浜地域において、地域座談会での議論に基づき、地域の子どもたちの顔が見えるイベント“ハロウィン仮装大会”が10月30日に開催された。</li> <li>行動制限が緩和されたことから、山之内地域で2月に地域の主要メンバーと再開と開催形式について検討し、進めていくこととする。</li> </ul>
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>【令和3年度と同様】</li> <li>対象：1年次－南住吉・清水丘 2年次－東粉浜・長居・苅田・苅田南</li> <li>【令和3年度と同様】</li> </ul>	(予定)		(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
B 小地域福祉計画の支援	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定に向けた議論を開始し、1地域において小地域福祉計画の素案を策定を支援する。</li> <li>対象：墨江・東粉浜・長居・苅田・苅田南</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1地域（墨江）で素案の作成</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、令和3年度内は緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出されていたため、参集形式での地域座談会が開催できず、小地域福祉計画策定に向けた議論に至らなかった。</li> <li>そうした中で、墨江地域では毎月開催される墨江地域福祉会議（地域のコアメンバーと包括、介護事業者等が参画し、地域福祉について話し合われる場）において、西地域包括支援センターの協力を得て「墨江地域福祉ビジョン（素案）」を取りまとめられた。</li> </ul>
	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定に向けた議論を開始し、1地域において小地域福祉計画（ビジョン）を策定、1地域において素案を策定を支援する。</li> <li>対象：墨江・東粉浜・長居・苅田・苅田南</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1地域（墨江）で素案から案への検討</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置こそ発出されなかったが、行動制限がかけられいたことから参集形式での地域座談会が開催できず、小地域福祉計画策定に向けた議論に至らなかった。</li> <li>そうした中で、墨江地域では墨江地域福祉会議において「墨江地域福祉ビジョン（素案）」に基づき各事業のブラッシュアップを行いながら、11月開催の「墨江地域福祉研修会」で報告された。地域住民への周知に向けて検討される。</li> </ul>
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>【令和4年度と同様】</li> <li>対象：墨江・東粉浜・長居・山之内・苅田・苅田南</li> </ul>	（予定）		（予定）

年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
		量的	質的	
			アウトプット	
令和3年度	<p>② ご近『助』福祉と居場所づくり</p> <p>・コロナ禍での地域の福祉活動の工夫や課題の共有、活動者のモチベーションの維持ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども食堂連絡会 4回</li> <li>・高齢者食事サービス連絡会 1回</li> <li>・子育てサロンボランティア連絡会 1回</li> <li>・子ども見守り隊連絡会 1回</li> <li>・子ども見守り隊校區別意見交換会 14校下各1回</li> <li>・子ども見守り隊幹事会・交流会 1回</li> <li>・ふれあい喫茶ボランティア連絡会 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども食堂連絡会 4回</li> <li>・高齢者食事サービス連絡会 1回</li> <li>・子ども見守り隊校區別意見交換会 4校下</li> <li>・同 アンケート 9校下</li> <li>・子育てサロンボランティア連絡会 1回</li> <li>・子ども見守り隊幹事会・交流会 中止</li> <li>・ふれあい喫茶ボランティア連絡会 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域子ども食堂連絡会参加13団体、実施回数合計402回、参加者延べ5,245人、従事スタッフ数1,526人。前年度は半数近くが活動できない状態で総実施回数は95回であったが、大幅に活動が回復したといえる。</li> <li>・子育てサロンボランティア交流会にて「各地域の情報交換」</li> <li>”参考になった”の割合 25%</li> <li>”どちらでもなかった”の割合 25%</li> <li>”参考にならなかった”の割合 0%</li> <li>”無回答”の割合 50%</li> <li>・ふれあい喫茶ボランティア交流会にて「各地域の情報交換」</li> <li>”参考になった”の割合 100%</li> <li>”どちらでもなかった”の割合 0%</li> <li>”参考にならなかった”の割合 0%</li> <li>”無回答”の割合 0%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、1年間緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出をされていたが、様々な感染対策をおこない、ほぼ予定どおりの交流会、会議等の開催ができた。</li> <li>・連絡会を開催したことで、コロナ禍での各地域・各団体等の地域福祉活動の状況（感染対策や工夫していることなど）の情報共有ができた。</li> </ul>

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
A ネット ワーク会議 の開催支 援	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・withコロナの地域福祉活動が地域で実施できている。</li> <li>・地域・子ども食堂連絡会 4回</li> <li>・高齢者食事サービス連絡会 1回</li> <li>・子育てサロンボランティア連絡会 1回</li> <li>・子ども見守り隊連絡会 1回</li> <li>・子ども見守り隊校区别意見交換会 14校下各1回</li> <li>・子ども見守り隊幹事会・交流会 1回</li> <li>・ふれあい喫茶ボランティア連絡会 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・子ども食堂連絡会 4回</li> <li>・地域・子ども食堂役員会 4回</li> <li>・すみよしこども映画会 1回</li> <li>・高齢者食事サービス連絡会 1回</li> <li>・子育てサロンボランティア連絡会 1回</li> <li>・子ども見守り隊連絡会 1回</li> <li>・子ども見守り隊校区别意見交換会(住吉小、東粉浜小、大空小、苅田南小、南住吉小、山之内小、大領小、苅田北小、依羅小、苅田小)※その他アンケート実施</li> <li>・子ども見守り隊幹事会 2回</li> <li>・子ども見守り隊交流会 1回</li> <li>・ふれあい喫茶ボランティア連絡会 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度の地域子ども食堂連絡会参加団体は14団体、前年度と比べて更に活動が拡大(テイクアウト等形態変更含む)。また、子ども食堂を広く周知するために(住吉区の子どものために)“すみよし子ども映画会”を開催。</li> <li>・子育てサロンボランティア交流会にて「各地域の情報交換」</li> <li>“参考になった”の割合 76.2%</li> <li>“どちらでもなかった”の割合19%</li> <li>“参考にならなかった”の割合 0%</li> <li>“無回答”の割合 4.8%</li> <li>・ふれあい喫茶ボランティア交流会にて「各地域の情報交換」</li> <li>“参考になった”の割合 95%</li> <li>“どちらでもなかった”の割合 0%</li> <li>“参考にならなかった”の割合 0%</li> <li>“無回答”の割合 5%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置こそ発出されなかったが、コロナ禍2年目ということもあり十分に感染対策を行い、予定どおりの交流会、連絡会等が開催できた。</li> <li>・各地域・各団体のwithコロナの活動について情報共有を行い、自身の地域・団体での活動に生かしてもらえた。</li> <li>・子育てサロンボランティア連絡会では、応急手当についての方法について学び、地域での展開に結びつけることができた。</li> <li>・高齢者食事サービス連絡会であがった地域の声を拾い、改善につなぐことができた。</li> </ul>
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・withコロナからコロナ前の活動へ。地域福祉活動が地域で実施できている。</li> <li>・地域・子ども食堂連絡会 4回</li> <li>・高齢者食事サービス連絡会 1回</li> <li>・子育てサロンボランティア連絡会 1回</li> <li>・子ども見守り隊連絡会 1回</li> <li>・子ども見守り隊校区别意見交換会 14校下各1回</li> <li>・子ども見守り隊幹事会・交流会 1回</li> <li>・ふれあい喫茶ボランティア連絡会 1回</li> </ul>	(予定)		(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
B 食事サービスやふれあい喫茶などの開催情報の発信	令和3年度	・各地域での食事サービスやふれあい喫茶などの開催情報を広報すみよしや区ホームページで周知をおこない、誰もが気軽に参加できる状況をめざす。	ふれあい喫茶 開催:10か所 中止:8か所  高齢者食事サービス(配食・会食) 実施:33か所 休止:2か所	—	・住吉区社会福祉協議会、まちづくりセンターからの情報提供を中心に各地域の開催・中止情報を集めホームページを更新
	令和4年度	・【令和3年度と同様】	ふれあい喫茶 開催:12か所 中止:6か所  高齢者食事サービス(配食・会食) 実施:33か所 休止中:2か所 (令和5年1月現在)	—	・住吉区社会福祉協議会、まちづくりセンターからの情報提供を中心に各地域の開催・中止情報を集めホームページを更新
	令和5年度	・【令和3年度と同様】	(予定)		(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
					アウトプット
(2) 支援が必要な人々へのつながりづくり					
A 地域と専門職のネットワーク強化	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おりおのカフェ</li> <li>・墨江出張相談</li> <li>・南住吉第5住宅</li> <li>・墨江小地域福祉会議</li> </ul> 地域と専門職の連携による各出張相談窓口の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大依羅神社暮らし健康相談会 1回</li> <li>・おりおのカフェ 3回</li> <li>・墨江出張相談 9回</li> <li>・南住吉第5住宅 中止</li> <li>・墨江小地域福祉会議 7回</li> </ul>	墨江地域ケアマネ交流会で参加者にアンケートを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動について「よく理解できた」と感じた参加者の割合：約82%</li> <li>・ケアマネジャーの仕事について「よく理解できた、まあまあ理解できた」と感じた参加者の割合：約82%</li> <li>・地域関係者とケアマネジャーとの関係性について「とても深まった、まあまあ深まった」と感じた参加者の割合：約87%</li> </ul>	神寺での出張相談会の開催など新たな場所を開拓することができ、通常に近い形で開催することができた。ふれあい喫茶などの場では直接的な相談は少ない傾向にあるが、ご近所の方の状況を心配されて情報提供を求める方などもおり、専門職を身近に感じていただき、気軽に相談いただける機会となっている。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と専門職の連携による地域の出張相談会の実施（4か所以上）</li> <li>・地域福祉活動者と専門職の交流会を実施できている（3回以上）</li> <li>・おりおのカフェ（第3日曜日）</li> <li>・墨江出張相談（第2月曜）</li> <li>・墨江地域福祉会議（第2火曜日）</li> <li>・地域活動者と専門職との交流会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おりおのカフェ（第3日曜日） 10回</li> <li>・墨江出張相談 4回</li> <li>・墨江地域福祉会議 7回</li> <li>・墨江地域福祉研修会 1回</li> <li>・南住吉「地域で共に暮らす知恵」の開催</li> <li>・清水丘地域高齢者支援ネットワーク交流会の開催</li> </ul>	①墨江地域福祉研修会の参加者にアンケートを実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉活動について「よく理解できた、まあまあ理解できた」と感じた人の割合：89%</li> <li>・今後の交流会（研修会）への意向について「是非参加したい、都合が合えば参加したい」と感じた人の割合：82%</li> </ul> ②南住吉「地域で共に暮らす知恵」参加者にアンケートを実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オレンジチームの理解度について「大変理解が深まった」と感じた人の割合：67%</li> <li>・認知症の方への対応について「役に立った」と感じた人の割合：94%</li> </ul> ③清水丘地域高齢者支援ネットワーク交流会の参加者にアンケートを実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談及び地域ケア会議（個別支援）の取り組みについて「理解が深まった（良かった）」と感じた人の割合：100%</li> </ul>
令和4年度					

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的		質的
			アウトプット		
	令和5年度	地域活動者と専門職の情報共有の場の開催 地域と専門職の連携による地域の出張相談会の実施 ・墨江地域福祉会議 ・山之内見守りボランティア会議 ・遠里小野常駐委員会 ・地域活動者と専門職のネットワーク交流会	(予定)		(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
B 地域支援事務所の窓口機能・拠点機能の充実	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援事務所の現状を把握し、今後の方向性について検討が始まっている。</li> <li>遠里小野常駐委員会（第2火曜日）</li> <li>山之内見守りボランティア会議（毎月）</li> <li>地域支援事務所のあり方を検証（会議の開催）</li> <li>常駐地域支援相談員研修会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠里小野常駐委員会 1回</li> <li>山之内見守りボランティア会議 5回</li> <li>常駐地域支援相談員研修会の開催 1回</li> <li>遠里小野常駐委員会 4回</li> <li>山之内見守りボランティア会議 5回</li> <li>常駐地域支援相談員研修会の開催 1回</li> <li>南住吉支援事務所開設前打ち合わせ 1回</li> <li>遠里小野常駐委員会 2回</li> <li>山之内見守りボランティア会議 2回</li> <li>地域支援事務所の在り方検証（会議）未開催</li> </ul>	令和3年度第1回区民意識調査において、 ・「あなたは、「地域見守り支援システム」のを知っていますか」との問いに、 ”知っている”の割合 34.2% ”知らなかった”の割合 65.8% ・「あなたは、「地域見守り相談室」のを知っていますか」との問いに、 ”知っている”の割合 29.7% ”知らなかった”の割合 70.3% となっている	会議開催は継続されていたが、支援事務所の在り方の方向性について議論を行う機会がなかった。 常駐地域支援相談員研修を実施し、相談員としてのスキルアップの機会を設けることができた。
	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域支援事務所の今後の方向性について検討が始まっている。</li> <li>遠里小野常駐委員会（第2火曜日）</li> <li>山之内見守りボランティア会議（月1回）</li> <li>地域支援事務所の在り方を検証（会議の開催）</li> <li>常駐地域支援相談員研修会の開催</li> </ul>	【1月末】 <ul style="list-style-type: none"> <li>遠里小野常駐委員会（第2火曜日） 10回</li> <li>山之内見守りボランティア会議（月1回） 16回</li> <li>苅田常駐地域支援相談員との打ち合わせ 1回</li> <li>地域支援事務所の在り方を検証（地域見守り支援システム検討会議での検討 1回）長居地域（2回）</li> <li>常駐地域支援相談員研修会の開催 2回</li> </ul>	令和4年度第1回区民意識調査において、 ・「あなたは、「地域見守り支援システム」のを知っていますか」との問いに、 ”知っている”の割合 40.5% ”知らなかった”の割合 59.5% ・「あなたは、「地域見守り相談室」のを知っていますか」との問いに、 ”知っている”の割合 34.2% ”知らなかった”の割合 65.9% となっている	地域見守り支援システム検討会での検討を1回実施し、支援事務所の在り方に向け議論を行った。十分な議論まではいかず、前段階の現状の共有にとどまった。果たす役割の整理と地域の特性にあった事務所の在り方を引き続き検討していく。 CSWが常駐地域支援相談員のニーズを把握し、ニーズに合わせた研修を行い、地域支援相談員の資質向上に努めた。
	令和5年度	地域支援事務所の今後の方向性について議論が深まっている。（地域見守り支援システム検討会議での検討）	（予定）	（予定）	（予定）

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
			アウトプット		
②子育て世代の孤立防止					
A 「はぐあっぷ」事業の継続実施	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期から就学前までの相談体制や関係機関との連携を強化し、切れ目のない子育て支援で子育てをサポートする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援連絡会の開催（毎月1回）</li> <li>・すみちゃん子育てネットの発行（2か月に1回）</li> <li>・SNSを通じた子育て情報の発信（随時）</li> <li>・利用者支援専門員の配置と相談の実施（通年）</li> <li>・子育て講座や子育て教室の実施（いやいやカフェ5回、のびのびひろば9回、ぴよぴよひろば12回、離乳食講習会等定期開催）</li> <li>・保健師等のアウトリーチ（随時）、両親学級の実施（5回）</li> <li>・いやいや期の子育て支援（ペアレントプログラム）の実施（1回）</li> </ul>	「住吉区子育て世代包括支援センターはぐアップ」を利用された保護者の満足度98.6%（利用者アンケート）	「はぐあっぷ」の主な取り組みとして、①子育て世代包括支援センターの機能強化、②子育て力向上のための啓発・講座等の開催、③貧困の連鎖を断ち切る取り組みなどを行ってきた。 上記取り組みを、コロナ禍の中、感染対策の徹底や実施方法の創意工夫等により、妊娠期から就学前までの期間に継続的に実施することで、切れ目のない子育て支援を子育て家庭に提供することができた。
	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【令和3年度と同様】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援連絡会の開催（毎月1回）</li> <li>・すみちゃん子育てネットの発行（2か月に1回）</li> <li>・SNSを通じた子育て情報の発信（随時）</li> <li>・利用者支援専門員の配置と相談の実施（通年）</li> <li>・子育て講座や子育て教室の実施（いやいやカフェ4回、のびのびひろば8回、ぴよぴよひろば12回、離乳食講習会等定期開催）</li> <li>・保健師等のアウトリーチ（随時）、両親学級の実施（パパのみ3回、両親1回実施、今後両親1回予定）</li> </ul>	住吉区子育て世代包括支援センター「はぐアップ」を利用された保護者の満足度98.7%「利用者アンケート（両親学級4回分まで、ぴよぴよ広場1月分まで、いやいや、のびのびは12月分まで集計済）」	「はぐあっぷ」の取り組みを、コロナ禍の中、感染対策の徹底や実施方法の創意工夫等により、妊娠期から就学前までの期間に継続的に実施することで、切れ目のない子育て支援を子育て家庭に提供することができた。 なお、令和4年度が「重大な虐待ゼロ」に向けた重点取組（市長重点予算）の最終年度となることや、区独自事業として展開している「はぐあっぷ」関連事業も開始以降3年以上経過していることから、この間の取り組みから把握された課題や国の動向等を踏まえ、「はぐあっぷ」再編案をとりまとめ、令和5年度の「はぐあっぷ」相談体制の充実強化並びに区独自事業の再編成を行った。
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【令和3年度と同様】</li> </ul>	<p style="text-align: center;">（予定）</p>	<p style="text-align: center;">（予定）</p>	<p style="text-align: center;">（予定）</p>

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
B すみちゃん「こども・子育て安心」見守りネットワークの推進	令和3年度	・支援を要するこどもや子育て世帯に早期に気づき必要な支援につなげられるよう、こども・子育てに関わる関係機関や地域団体等の連携が進んでいる。	・「ヤングケアラー」をテーマとした研修を開催(2回)。 ・啓発用ハンドブック「ヤングケアラーを知っていますか？」を作成し、地域の子育て支援機関や地域団体等に配布。	研修後のアンケートにおいて、見守りの必要性について理解したと回答した割合:96.4%	・コロナ禍による取り組みの困難さはあったものの、自らSOSを発することが少なく周囲の気づきが困難な事案が多い「ヤングケアラー」に関する研修会を開催することができた。 ・上記「ヤングケアラー研修」の内容を踏まえた啓発用ハンドブック「ヤングケアラーを知っていますか？」を作成し、「すみちゃん『こども・子育て安心』見守りネットワーク」参加の区内の子育て世帯に関わる子育て機関や地域団体等に配布した。
	令和4年度	・支援を要するこどもや子育て世帯に早期に気づき必要な支援につなげられるよう、こども・子育てに関わる関係機関や地域団体等の連携を進める。	・「ヤングケアラー」に対する居場所やピアサポート事業に取り組んでいる事業者や当事者を招き、研修を開催。 ・子育て相談室における相談内容や各種相談窓口の連絡先等を紹介したリーフレットを作成し、地域の子育て支援機関や地域団体等に配布。	研修後のアンケートにおいて、見守りの必要性について理解したと回答した割合:94.1%	・コロナ禍による取り組みの困難さはあったものの、昨年度に引き続き「ヤングケアラー」に対する居場所やピアサポートの取り組みを実施している事業所や当事者を招き、研修会を開催することができた。 ・子育て相談室における相談内容や各種関係機関の連絡先等を紹介したリーフレットを作成し、「すみちゃん『こども・子育て安心』見守りネットワーク」参加の区内の子育て世帯に関わる子育て機関や地域団体等に配布した。
	令和5年度	・【令和4年度と同様】	(予定)	(予定)	(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
C こどもサポートネットの継続実施	令和3年度	・支援を必要としている児童・世帯を継続的に把握し、適切に福祉制度・資源につなぐ。	・スクリーニング会議Ⅱを小学校14校、中学校8校においてのべ60回開催。 ・スクリーニング会議Ⅱにおいて、201人の児童生徒についてアセスメントを実施。	・区役所がアウトリーチした件数のうち、何らかの支援につながった割合40%	・コロナ禍の中、学校は非常に困難な状況にも関わらず、各学校の努力により定期的にスクリーニング会議Ⅱが開催され、必要なこどもや子育て世帯への支援などの取り組みを行うことができた。 ・令和3年度より、区独自配置のスクールソーシャルワーカーとこどもサポートネットスクールソーシャルワーカーを一体的に運用するとともに、支援の必要なこどもの割合等により選定された学校に拠点配置することなどにより、教職員がスクールソーシャルワーカーに相談しやすくなることとともにスクールソーシャルワーカーも支援の必要なこどもに気づく機会が増えるなど、効果的な運用に努めた。
	令和4年度	・【令和3年度と同様】	・スクリーニング会議Ⅱを小学校14校、中学校8校においてのべ37回開催（11月末時点）。 ・スクリーニング会議Ⅱにおいて、175人（11月末時点）の児童生徒についてアセスメントを実施。	・区役所支援がアウトリーチした件数のうち、何らかの支援につながった割合97.6%	・コロナ禍の中、学校は非常に困難な状況にも関わらず、各学校の努力により定期的にスクリーニング会議Ⅱが開催され、必要なこどもや子育て世帯への支援などの取り組みを行うことができた。 ・令和3年度より継続して、区独自配置のスクールソーシャルワーカーとこどもサポートネットスクールソーシャルワーカーを一体的に運用するとともに、拠点配置することなどにより、効果的な運用に努めた。
	令和5年度	・【令和3年度と同様】	(予定)	(予定)	(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
D「地域の拠点づくり・潜在的リスクへのアプローチ」事業の実施	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の拠点に子育ての専門職が巡回し、子どもや子育て世帯を見守る地域ボランティア等への情報提供を通じ、地域における支援力の向上を図るとともに、子育て世帯の身近な相談の場を確保する。</li> <li>見守りが手薄な対象へのアプローチを行い、潜在的リスク把握と必要な支援につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5地域で子育て相談会を開催し、11地域の地域見守り支援事務所を巡回するとともに地域の子育てサロン、つどいの広場、保育園等を巡回中。</li> <li>2歳6か月児を対象に、全家庭への質問書等を送付(990件)。</li> <li>要対協登録ケースなど支援の必要な世帯へのアプローチを実施。</li> </ul>	日頃から相談できる体制が整った地域の割合:91.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中ではあるが、地域における子育てサロン等が順次再開される状況を受けて、各地域に「子育て何でも相談会」の実施に向けた協力を依頼し、順次相談会開催地域を増やすとともに、子育てサロン、つどいの広場、保育所・幼稚園等への巡回相談を実施している。また、令和3年度より、地域の見守り支援事務所への専門職の巡回を順次開始し、支援が必要な子どもや子育て世帯の情報を地域と情報共有するなどにより、支援に結びつけにくい子どもや子育て世帯にもアプローチする取り組みを実施している。</li> <li>2歳6か月児を対象に、全家庭への質問書等を送付するなどポピュレーションアプローチを継続実施している。</li> </ul>
	令和4年度	・【令和3年度と同様】	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在11地域で子育て相談会を開催し、11地域の地域見守り支援事務所を巡回することにより、全地域の子育て支援拠点の巡回を行うとともに地域の子育てサロン、つどいの広場、保育園等を巡回中。</li> <li>2歳6か月児を対象に、全家庭への質問書等を送付中(784件:12月末時点)。</li> <li>要対協登録ケースなど支援の必要な世帯へのアプローチを実施。</li> </ul>	日頃から相談できる体制が整った地域の割合:100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>「子育て何でも相談会」未実施地域に対し、「相談会」の実施に向けた協力を依頼し、開催地域を順次増やすことにより、現在全地域で相談会の定期的開催や子育てサロン、つどいの広場、保育所・幼稚園等への巡回相談を実施している。また、地域の見守り支援事務所への専門職の巡回も継続し、支援が必要な子どもや子育て世帯の情報を地域と情報共有するなどにより、支援に結びつけにくい子どもや子育て世帯にもアプローチする取り組みを実施している。</li> <li>2歳6か月児を対象に、全家庭への質問書等を送付するなどポピュレーションアプローチを継続実施している。</li> </ul>
	令和5年度	・【令和3年度と同様】	(予定)	(予定)	(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
③専門機関の連携強化					
A 「総合的な支援調整の場（つながる場）」の活用	令和3年度	・区内関係機関の協力を得て、埋もれたケースの発掘に努める。	(目標数値 つながる場会議 10件) つながる場開催 新規 2件・継続 5件 計8件	・つながる場会議の参加者にアンケートを実施し「顔の見える関係づくりができた、もしくはそのきっかけができた」と感じた参加者の割合：80%以上 ⇒92.3%	・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、1年間緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出をされており、10月以降、地域の多様な主体の支援機関が参集するのが難しかった。住吉区相談支援ガイドブックを作成し、協力関係機関との横のつながりを強化した。
	令和4年度	・【令和3年度と同様】	(目標数値 つながる場会議 10件) つながる場開催 令和5年1月現在 新規 1件・継続 3件 計4件	・つながる場会議の参加者にアンケートを実施し「顔の見える関係づくりができた、もしくはそのきっかけができた」と感じた参加者の割合：80%以上 ⇒95.8%	・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置こそ発出されなかったが、行動制限がかけられていたことから地域の多様な主体の支援機関も相談などを受け付けることが難しく、つながる場会議に結びつかなかった。
	令和5年度	・【令和4年度と同様】	(予定)		(予定)
B 子ども若者育成支援事業の継続実施	令和3年度	・不登校やひきこもり等で悩んでいる子ども・若者を掘り起し、相談事業に繋げるなどにより継続的な支援を行なう。	・延べ相談件数 327件 相談新規 9件・相談継続 48件	・相談延べ件数350件以上 ⇒327件	コロナ禍の中ではあったが、相談事業やケース検討会議、保護者向け講座やフォーラムを予定通り開催することができた。なかでも相談事業では相談枠を拡充し、より多くの相談を受けることができ、当事者やその家族の悩みに対して寄り添った支援をすることができた。
	令和4年度	・【令和3年度と同様】	【1月時点】 ・延べ相談件数 312件 相談新規 10件・相談継続 42件  ・事前登録 3件 ・ゆるやかな就労支援 2件	・相談延べ件数350件以上 ⇒347件(令和5年2月末現在)	コロナ禍の中ではあったが、相談事業やケース検討会議、保護者向け講座やフォーラムを予定通り開催することができた。なかでも相談事業ではさらに相談枠を拡充し、より多くの相談を受け支援することができた。また、今年度より新たに、他機関での支援が年齢制限などにより満了する者に対して、切れ目のない継続的な支援を行うため、対象者やその家族の同意による事前登録を開始した。加えて社会福祉施設と連携し、比較的ゆるやかな就労の受入れを依頼し、対象者とのマッチングやコーディネートを実施した。

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的		質的
			アウトプット		
	令和5年度	・【令和4年度と同様】	(予定)		(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
④ つながり・みまもり・支えあいシステムの構築					
A 区実務者代表者会議等を活用した包括的な支援の実施	令和3年度	・区実務者代表者会議、またはそれに代わるものの開催について策定する。	設置運営要綱(素案)を検討。	区実務者代表者会議の参加者アンケートを実施し「住吉区全体の福祉課題について、認識が深まった」と感じた割合:75% ⇒コロナ禍で区実務者代表者会議が開催できず、参加者に対するアンケートは実施できなかった。	・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、令和3年度内は緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出されていたため、区実務者代表者会議が開催できなかった。
	令和4年度	・区実務者代表者会議の運営要綱を策定し、年1回定例開催する。	「住吉区地域福祉実務者代表者会議設置運営要綱(案)」を策定。年度内に最低1回開催する。	区実務者代表者会議の参加者アンケートを実施し「住吉区全体の福祉課題について、認識が深まった」と感じた割合:75% ⇒コロナ禍で区実務者代表者会議が開催できず、参加者に対するアンケートは実施できなかった。	・新型コロナ感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置こそ発出されなかったが、行動制限がかけられていたことから参集形式での区実務者代表者会議の開催が難しかった。 ・区社協と打合せ会議を開催し、要綱策定に向け協議を行い、実施要綱(案)及び構成メンバーについて協議を行い、年度内開催に向け引き続き検討していく。
	令和5年度	・区実務者代表者会議を年1回以上開催し、関係者で課題を共有し、包括的な支援につなげていく。	(予定)		(予定)
⑤ 虐待防止と権利擁護支援					
A 成年後見制度の利用促進	令和3年度	・権利擁護が必要となった時に、速やかに窓口につながるようにする。	・広報「すみよし」掲載(年1回)	—	広報で周知することにより、必要な人に、速やかにつながるよう取り組んでいる。
	令和4年度	・【令和3年度と同様】	・広報「すみよし」掲載(年1回)	—	広報で周知することにより、必要な人に、速やかにつながるよう取り組んでいる。

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的		質的
			アウトプット		
	令和5年度	・【令和4年度と同様】	(予定)		(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
			アウトプット		
(3) 災害時に備えた地域における支えあいの仕組みづくり					
① 住吉区地域見守り支援システムの構築					
	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点地域（長居・苅田・苅田南・苅田北）での、日頃の見守りが地域全体での取り組みとなっている。</li> <li>コロナ禍でも工夫して見守り活動が実施できている地域が増えている。</li> <li>個別支援プラン作成の必要性について未作成地域に周知する。</li> <li>地域見守り支援システム検討会議で情報を共有、協議し地域ごとの支援方針や戦略を策定し、支援する。</li> <li>重点地域（長居・苅田・苅田南・苅田北で実施）</li> <li>コロナ禍での見守り方法について検討、地域に情報提供し、実施に向けて支援する。</li> <li>新規台帳を地域に交付するときに、個別支援プランも一緒に渡すなど地域に必要性を理解して取り組んでもらえるよう働きかけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時要援護者支援台帳掲載者への見守り活動に活用するための啓発物品配布（災害時用簡易携帯トイレ）</li> <li>苅田南見守り会議開催 1回</li> <li>新規台帳に更新する際、個別支援プランの作成に向けて説明</li> <li>町会エリアごとの見守り進捗状況を確認し、地域見守り支援システム検討会議で情報を共有</li> </ul>	<p>令和3年度第2回区民意識調査において、「あなたは、お住まいの地域では日頃からご近所どうして「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支えあい」が行われていると感じますか」との問いに、</p> <p>「大いに感じる」 5.8%</p> <p>「ある程度感じる」 17.8%</p> <p>「どちらかというと感じる」 25.7%</p> <p>”感じる”の割合 48.7%</p> <p>「どちらかというと感じない」 23.9%</p> <p>「あまり感じない」 17.2%</p> <p>「全く感じない」 10.1%</p> <p>”感じない”の割合 51.2%</p> <p>となっている。</p>	<p>コロナ禍で会議がなかなか開催できない状況だったため、10月の災害時要援護者台帳の提供時に地域見守り支援システムの説明、見守り活動についての説明を行った。</p> <p>地域見守り支援システム検討会議で状況共有を行ったが、地域への働きかけができなかった。</p>

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
A 日頃の見守り・声かけの未実施地域への働きかけ	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点地域（長居・南住吉・苅田・苅田南・苅田北）での、日頃の見守りが地域全体での取り組みとなっている。</li> <li>見守り活動が実施できている地域が増えている。</li> <li>災害時要援護者支援台帳の情報が細部まで更新できていて、見守り活動に生かされている。</li> <li>重点地域（長居・苅田・苅田南・苅田北、南住吉で実施）では、地域見守り支援システム検討会議で情報を共有、協議し地域ごとの支援方針や戦略を策定し、支援する。</li> <li>見守り方法について検討、地域に情報提供し、実施に向けて支援する。</li> <li>新規台帳を未実施地域に交付するときには、特に台帳情報の未更新者を洗い出し、見守り、声かけ運動の実施を検討できるよう働きかけていく。</li> </ul>	<p>【1月末】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重点地域での見守り支援システム検討会議で、各地域での見守り支援活動について、現在の取り組み状況の共有と今後の進め方について協議に参画し、事業の進め方について説明し、必要な支援をする。（長居 2回、苅田 2回、苅田南 1回、苅田北 1回、南住吉 1回）7回</li> <li>役員改選に伴い、希望する地域には各地域見守り支援者の会議にて見守り支援システム説明を実施（清水丘 2回、依羅 2回）</li> <li>苅田北地域の我孫子東第6住宅自治会の役員改選につき、見守り支援システム、訪問の仕方について説明 1回</li> <li>依羅地域の我孫子東町会我孫子南住宅の役員改選に伴い、見守り支援事業の説明と協力依頼をする。1回</li> <li>台帳更新時に見守り声かけ運動推進の働きかけ（墨江 1回、苅田北 1回、苅田 1回、依羅 1回、清水丘 1回、住吉 1回）</li> <li>山之内地域 町会別個別支援プラン作成に向けた説明会 9回</li> </ul>	<p>令和4年度第2回区民意識調査において、「あなたは、お住まいの地域では日頃からご近所どうして「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支えあい」が行われていると感じますか」との問いに、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「大いに感じする」 5.0%</li> <li>「ある程度感じる」 14.6%</li> <li>「どちらかというと感じる」 30.6%</li> <li>”感じる”の割合 50.2%</li> <li>「どちらかというと感じない」 23.1%</li> <li>「あまり感じない」 14.6%</li> <li>「全く感じない」 11.9%</li> <li>”感じない”の割合 49.6%</li> </ul> <p>となっている。</p>	<p>重点地域で苅田南では地域全体での取り組みになっている。</p> <p>見守り活動が実施できるよう会議の開催を呼びかけたり、状況を把握したりし、地域への声かけ、働きかけを行った。</p>
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点地域（長居・南住吉・苅田・苅田北）での、日頃の見守りが地域全体での取り組みとなっている。</li> <li>見守り活動が実施できている地域が増えている。</li> <li>災害時要援護者支援台帳の情報が見守り活動に生かされている。</li> <li>見守り方法について検討、地域に情報提供し、実施に向けて支援する。</li> <li>新規台帳を未実施地域に交付するときには、特に台帳情報の未更新者を洗い出し、見守り、声かけ運動の実施を検討できるよう働きかけていく。</li> </ul>	(予定)	(予定)	(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
② 施設や事業所との連携・協働の推進					
A 住吉区 総合防災 訓練の実 施	令和3年度	・全12地域で総合防災訓練を実施し、地域防災力の向上を図る。	全12地域で実施	約2,000人参加。R3年度はR2年度内容に加え、町会役員等を含め町会一時避難場所も訓練を実施。	一般の方は参加対象にせず、区内全12地域活動協議会（地域活動協議会役員、地域防災リーダー、町会役員等のみ）、区役所職員、直近参集者、各種関係団体等に規模を縮小して、新型コロナ禍を考慮した町会一時避難場所及び災害時避難所の開設運営訓練を実施。
	令和4年度	・【令和3年度と同様】	全12地域で実施	約4,500人参加。R3年度内容に加え、3年ぶりに一般の方も参加対象に実施。大和川中学校生徒も土曜日授業として山之内地域へ221名、遠里小野地域へ56名、地域外9名が各地域の訓練に参加。	3年ぶりに一般の方を含む区内全12地域活動協議会、区役所職員、直近参集者、各種関係団体等を参加対象にして、新型コロナ禍を考慮した町会一時避難場所及び災害時避難所の開設運営訓練と重点項目として新たに「女性の視点を踏まえた避難所運営」を加え実施。
	令和5年度	・【令和3年度と同様】	(予定)		(予定)
B 福祉避 難所等連 絡会の開 催	令和3年度	・年2回福祉避難所等連絡会を開催し、情報共有及び災害対応力の向上を図る。	福祉避難所等連絡会2回⇒福祉避難所小委員会2回	小委員会を福祉施設4施設、社協、区役所の計6機関11名で実施。	・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、令和3年度内は緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出されていたため、福祉避難所等連絡会が開催できず、福祉避難所小委員会の開催にとどまった。 ・そうした中で、「福祉避難所等開設運営動画」の作成にかかる意見交換を実施することができた。
	令和4年度	・【令和3年度と同様】	福祉避難所小委員会1回、福祉避難所等連絡会2回	小委員会を福祉施設4施設、社協、区役所の計6機関11名で実施。 連絡会、第1回は17施設18名、第2回は23施設32名が参加。	福祉避難所小委員会 ・「福祉避難所等開設運営動画」の作成の進捗状況報告 第1回福祉避難所等連絡会 ・福祉避難所や緊急入所施設についての役割等について説明 ・福祉施設におけるBCP作成状況について、福祉施設から発表 ・防災ディスカッション研修を実施 第2回福祉避難所等連絡会 佛教大学専門職キャリアサポートセンター実習指導専任講師 後藤 至功氏による『福祉避難所(福祉施設)におけるBCPの作成について』講義

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
	令和5年度	・【令和3年度と同様】	(予定)		(予定)
C 社会福祉施設連絡会等とのネットワークの強化	令和3年度	・防災に関する体験や災害時に支援や配慮を必要とする方々との交流を通じて、みんなで災害への備えを考える防災イベントを開催する。	防災イベント「あそぼうさい まなぼうさい おたがいさまの防災」開催	8団体(約35名)が出展し、防災劇、防災器材や防災グッズの展示、DMATIによるトリアージ体験など。当日の参加者は60名。	新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、令和3年度内は緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出されていたため、来場者の定員を100名、事前申し込み制にして、ほぼ体験ブースが無いよう展示ブースを増やして開催。当日の参加者は60名。
	令和4年度	・【令和3年度と同様】	防災イベント「あそぼうさい まなぼうさい おたがいさまの防災」開催	9団体(約40名)が出展し、防災劇、防災器材や防災グッズの展示、DMATIによるトリアージ体験、災害伝言ダイヤル体験など。当日の参加者は103名。	新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえで、コロナ禍以前のように体験ブースも設置し定員制限をせず、当日参加も可として実施。今年度は、初めて大和川水防組合にもブースを出展していただき、当日の参加者は103名。
	令和5年度	・【令和3年度と同様】	(予定)		(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
					アウトプット
(4) 地域福祉活動の担い手の層を厚くする取組み					
① 福祉教育・ボランティア活動の取組みの拡充					
A 区民への地域活動・社会参加の促進講座・研修の開催支援	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座・研修会の開催により、参加者が自主的な活動に取り組むことができている。</li> <li>・地域福祉活動に関心が高まる講座が開催できるよう区民のニーズや地域の動向等の情報提供、情報共有を行う。</li> <li>(区社協実施予定の講座)</li> <li>・手話奉仕員養成講座</li> <li>・ボランティアセミナー(除菌スプレー)</li> <li>・傾聴ボランティア</li> <li>・自殺予防セミナー</li> <li>・ボランティア入門講座</li> <li>・災害ボランティア養成講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話奉仕員養成講座 9回</li> <li>・ボランティア・市民活動セミナー(除菌スプレー) 1回</li> <li>・ボランティア入門講座 1回</li> <li>・認知症サポーター養成講座(市大共催) 1回</li> <li>・手話奉仕員養成講座 13回</li> <li>・ボランティア・市民活動セミナー 1回(あなたにもできる自殺予防)</li> <li>・災害ボランティア養成講座 3回</li> <li>・聴き方教室 1回</li> <li>・認知症予防学習会 1回</li> <li>・認知症サポーター養成講座 2回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア・市民活動セミナー(アロマ除菌スプレー)には9人が参加、「よく理解できた」(100%)、「役に立ちそう」(100%)とのアンケート結果で、とても簡単で子育てサークルでもやってみようといった声が聞かれた。</li> <li>・災害ボランティア養成講座(全3回)には延べ26人が参加。受講して「とても満足」「満足」を合わせて87%。活動経験のある人は12%で活動する際の参考になったとした人は87%だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、1年間緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出をされており、各ボランティアやボランティアグループが中々活動できない中、コロナ禍での感染対策の工夫や活動の形態を変更するなど様々な手法でボランティア活動の継続の相談支援を行った。</li> <li>・各種講座についてはコロナ過ということもあり、講座の開催形態や内容を工夫するなどほぼ予定どおりの講座を行った。特に除菌スプレーの作成のセミナーについては、開催場所を開拓し、またこの取り組みについては、地域での展開につながり、地縁型のボランティア活動とテーマ型ボランティア活動の協働が生まれた。</li> </ul>
	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座・研修会の開催により、参加者が自主的な活動に取り組むことができている。</li> <li>・地域福祉活動に関心が高まる講座が開催できるよう区民のニーズや地域の動向等の情報提供、情報共有を行う。</li> <li>(区社協実施予定の講座)</li> <li>・手話奉仕員養成講座</li> <li>・点字教室</li> <li>・精神保健福祉講座</li> <li>・ボランティア市民活動セミナー(布ぞうりづくり・あなたにもできる自殺予防)</li> <li>・傾聴ボランティア養成講座</li> <li>・スマホボランティア養成講座</li> <li>・災害ボランティア養成講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【1月末】</li> <li>・手話奉仕員養成講座 全40回</li> <li>・点字教室 全10回</li> <li>・精神保健福祉講座 1回</li> <li>・スマホボランティア養成講座 全3回</li> <li>・災害ボランティア養成講座 全3回</li> <li>・災害ボランティアセンター設置運営訓練 1回</li> <li>・ボランティア市民活動セミナー(個人情報とは～あなたは大丈夫?～) 1回</li> <li>・傾聴ボランティア養成講座 全5回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉施設連絡会として実施した福祉の職場見学ツアー6人が参加した(高校生3人、大学生3人)。見学ツアー参加の感想として、「良かった」が100%。施設と聞くと閉鎖的なイメージがあったが、いきいきと過ごされている姿が印象的だった、仕事内容を詳しく知ることができ参加して本当に良かったといった感想が聞かれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置こそ発出されなかったが、コロナ禍2年目ということもあり十分に感染対策を行い、予定どおりの講座等が開催できた。</li> <li>・withコロナのボランティア・ボランティアグループでの活動についての視点について、自身・ボランティアグループでの活動に活かしてもらえよう情報提供を行なった。</li> </ul>

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座・研修会の開催により、参加者が自主的な活動に取り組むことができている。</li> <li>・地域福祉活動に関心が高まる講座が開催できるよう区民のニーズや地域の動向等の情報提供、情報共有を行う。</li> <li>(区社協実施予定の講座)</li> <li>・手話奉仕員養成講座</li> <li>・点字教室</li> <li>・精神保健福祉講座</li> <li>・ボランティア市民活動セミナー(布ぞうりづくり・あなたにもできる自殺予防)</li> <li>・傾聴ボランティア養成講座</li> <li>・スマホボランティア養成講座</li> <li>・災害ボランティア養成講座</li> </ul>	(予定)		
	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉教育の実施による障がい等への理解と福祉の心の醸成</li> <li>・福祉教育を実施する際の協力者・協力団体が増えている</li> <li>・新たな協力者、協力団体への声かけや地域、学校のニーズ把握を行い、情報提供、情報共有を行う</li> <li>・実施にあたっては新たな協力者や協力団体に声をかける。</li> <li>・福祉教育の実施(対象:地域住民、小・中・高・短大等)</li> <li>(車いす体験、障がい当事者講話等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風の子学童クラブ(防災教育) 1回</li> <li>・福祉教育の実施 9回</li> <li>① 苅田小学校(3年生)車いすユーザーのお話 1回</li> <li>② 風の子学童クラブ(1年生～6年生)防災ダンボールベッド体験 1回</li> <li>③ 建国小学校(3年生)視覚障がい者のお話 1回</li> <li>④ 長居小学校(3年生)盲導犬ユーザーのお話 1回</li> <li>⑤ 建国小学校(2年生)手話体験 1回</li> <li>⑥ 長居小学校(2年生)手話体験 1回</li> <li>⑦ 住吉小学校(6年生)点字体験 1回</li> <li>⑧ 長居小学校(2年生)聴導犬ユーザーのお話 1回</li> <li>⑨ 南住吉小学校(3年生)視覚障がい者への理解(当事者による講話と手引き体験)</li> <li>・福祉教育 2回</li> <li>① 大領小(2年)手話体験 1回</li> <li>② 遠里小野小(5年)車いす体験 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施校(建国小、長居小、南住吉小、大領小)に加えて、住吉小、遠里小野小の2校から依頼があったほか、苅田小、学童クラブから新規の実施依頼を受けることができ、プログラム実施先が拡大した。</li> <li>・手話歌を体験した小学生からは、ジェスチャーから手話につながる親しみやすい内容が好評だったほか、聴覚障がい者の日常生活上の困りごとに関心を寄せる姿も見受けられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、1年間緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出をされており、各学校の運営についても安定していない中、担当の先生、また講師の方々と様々な感染対策等の協議を行い、工夫をこらして開催した。</li> <li>・学校、ボランティア団体のコロナ禍での活動の調整等も難しく、例年より福祉教育の依頼も少なかった。</li> </ul>

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
B 福祉教育の実施支援	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互に学びのある福祉教育を実践できている。</li> <li>・他の社会福祉団体とも協力して実践することにより、互いの良い所なども学び、取り入れていっている。</li> <li>・講師ボランティアとの交流会ができている。</li> <li>・福祉教育の実施(対象:地域住民、小・中・高・短大等) (車いす体験、障がい当事者講話等)</li> <li>・校長会・教頭会での周知。</li> <li>・区社協だよりでのPR。</li> <li>・実施にあたっては区社協内での情報共有をすすめながら、新たな協力者・協力団体への声かけを検討する。</li> </ul>	<p>【1月末】</p> <p>5月・校長会・教頭会で周知活動</p> <p>6月・大阪公立大学へ車いす10台貸出し(学生を対象とした体験教育)10日～20日・大和川中学校への車いす6台貸出し(生徒を対象とした体験教室)21日～24日・あびこ病院へ高齢者疑似体験セット2組貸出し(職員対象の院内学習)24日～7月2日・区社協フェスティバル(25日)においてパネル展示等の周知活動</p> <p>7月・車いす体験教室の実施(苅田北地域住民対象)7日【15名参加】</p> <p>8月・藤こども園へプレママ体験セット1組・新生児人形セット1組の貸出し(こども・保護者・職員を対象とした学習会)18日～9月17日</p> <p>9月・AOTS関西研修センターへ車いす貸出し(研修生を対象にした学習会)9月26日～12月15日・建国小学校へ高齢者疑似体験セットの貸出し(生徒を対象に福祉教育の実施)9月30日～10月7日</p> <p>10月・車いす体験教室の実施(いきいきライフサポーター対象)19日【6名参加】</p> <p>11月・視覚障がい者への理解と手引き体験の実施(建国小学校3年生対象)17日【26名参加】・手話体験教室の実施(建国小学校2年生対象)21日【30名参加】・手話体験教室の実施(長居小学校2年生対象)25日【124名参加】</p> <p>12月・点字体験教室の実施(住吉小学校6年生対象)1日【54名参加】・聴導犬ユーザーへの理解を深めるお話の実施(長居小学校2年生対象)13日【124名参加】</p> <p>1月・盲導犬ユーザーへの理解を深めるお話の実施(長居小学校3年生対象)27日【125名参加予定】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の小中学校からの依頼に加えて、大阪公立大学や医療機関等へ車いす、高齢者疑似体験セットの貸出しを行ない、連携先が拡大した。</li> <li>・また地域での体験学習の機会も1地域で実施ができ、重度の障がい者が家族と一緒に参加され、地域住民が相互に直接の交流を持つ機会となり、大変好評だった。</li> <li>・また、例年行っている点字体験教室では、講師役となる新たな当事者団体1団体に協力を得られるようになり、連携先も拡大した。</li> <li>・展示学習を体験した小学生からは、視覚障がい者が電車の音の違いの話をされた際に、自身が意識をしていなかったことに気づかされたといった感想も聞かれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置こそ発出されなかったが、コロナ禍2年目ということもあり学校、ボランティア団体も感染に対する知識も増え、十分に感染対策を行い、依頼の件数も戻ってきており、開催することができた。</li> <li>・福祉教育の実施報告をSNSで発信し、広く周知できた。</li> <li>・福祉教育実施までの打ち合わせをこれまでの資料を共有しながら行うことで、実施のブランク期間があってもスムーズに開催することができた。</li> </ul>
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互に学びのある福祉教育を実践できている。</li> <li>・他の社会福祉団体とも協力して実践することにより、互いの良い所なども学び、取り入れていっている。</li> <li>・講師ボランティアとの交流会ができている。</li> <li>・福祉教育の実施(対象:地域住民、小・中・高・短大等) (車いす体験、障がい当事者講話等)</li> <li>・校長会・教頭会での周知。</li> <li>・区社協だよりでのPR。</li> <li>・実施にあたっては区社協内での情報共有をすすめながら、新たな協力者・協力団体への声かけを検討する。</li> </ul>	(予定)		(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
C ボランティア交流会の開催支援	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり交流ライブの開催を通じて、地縁型・テーマ型の協働事業例が新たに生まれている</li> <li>・ボランティア同士の交流により情報交換や活動の活性化を図る</li> <li>・まちづくり交流ライブの実施(3回)</li> <li>・まちづくり交流プランの実施、支援(2プラン)</li> <li>・ボランティア交流会の開催(1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり交流ライブの実施(オンライン) 1回</li> <li>・緊急事態宣言下につき、開催方法を検討、オンラインで実施した。</li> <li>・まちづくり交流プラン打合せ 1回</li> <li>まちづくり交流プラン打合せ(苜田地域) 4回</li> <li>まちづくり交流プラン実施(苜田子どもまちあるき) 1回</li> <li>まちづくり交流ライブ代替事業 1回</li> <li>まちづくり交流ライブ 1回</li> <li>住吉区ボランティア市民活動センター登録ボランティア交流会 1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録ボランティア交流会には21人が参加した。</li> <li>・交流会の持ち方について、15件の意見があり、他地域の活動事例等がとても参考になったといった声が聞かれた。</li> <li>・交流会をふまえて今後の自身の活動に活かしていくための意見は17件あり、想像力、自然体の大切さ、工夫の継続等の声があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、1年間緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出をされていたが、ICTの活用したり、様々な感染対策をおこなったりして、ほぼ予定どおりの交流会、イベント等の開催ができた。</li> <li>・コロナ禍での活動についてICTを活用したり、感染対策を工夫し、参加者同士の交流の機会を設けることができた。</li> </ul>
	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり交流ライブの開催を通じて、地縁型・テーマ型の協働事業例が新たに生まれている</li> <li>・ボランティア同士の交流により情報交換や活動の活性化を図る</li> <li>・まちづくり交流ライブの実施(2回)</li> <li>・まちづくり交流プランの実施、支援(2プラン)</li> <li>・ボランティア交流会の開催(1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【1月末】</li> <li>・まちづくり交流ライブ 1回「若い世代とつながろう」3/3実施予定</li> <li>・まちづくり交流プラン</li> <li>①苜田子ども110番の家まちあるき 1回 ※打合せ実施 3回</li> <li>②古地図まちあるき 1回 ※打合せ実施 1回 下見 1回</li> <li>・ボランティア交流会(3月予定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録ボランティア交流会には21人が参加した。</li> <li>・交流会の満足度は100%、交流会の持ち方に10件の意見があり、メンバーを増やす努力も必要だが、まず自分たちが心躍る活動をしているかを振り返ることができた、といった感想が聞かれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置こそ発出されなかったが、コロナ禍2年目ということもあり十分に感染対策を行い、予定どおりのイベント、交流会等が開催できた。</li> <li>・交流ライブのアイデアから生まれた交流プラン(古地図まちあるき)が新たにひとつ実現できた。</li> <li>・昨年度実施できた交流プラン(こども110番の家まちあるき)を継続実施できた。</li> </ul>
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり交流ライブの開催を通じて、地縁型・テーマ型の協働事業例が新たに生まれている</li> <li>・ボランティア同士の交流により情報交換や活動の活性化を図る</li> <li>・まちづくり交流ライブの実施(2回)</li> <li>・まちづくり交流プランの実施、支援(2プラン)</li> <li>・ボランティア交流会の開催(1回)</li> </ul>	(予定)	(予定)	(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
					アウトプット
(5) 多様な協働(マルチパートナーシップ)による地域づくり					
① 地域包括ケア体制づくり					
A 在宅医療・介護連携の推進	令和3年度	・コロナ禍であっても医療と介護の関係者が連携し合える機会づくりを行い、区民が「ACP(人生会議)」について知る機会をつくる。	・医療・介護連携推進会議(年3回) ・専門職研修(年1回) ・市民向け啓発(小地域での啓発)	ACP(人生会議)について知っている と回答した区民の割合:未測定 (区民意識調査)	コロナ禍の状況ではあるが、令和3年度以降、「人生会議(ACP)」の普及啓発に取り組み、令和3年度には専門職向け研修や、小地域での市民向け啓発の実施に取り組んだ。
	令和4年度	・【令和3年度と同様】	・医療・介護連携推進会議(年3回) ・市民向け啓発(講演会1回開催) ・医療と介護あんしんマップ改訂版発行	ACP(人生会議)について知っている と回答した区民の割合:20.2% (区民意識調査)	コロナ禍の状況ではあるが、令和4年度には、地域で高齢者支援に取り組む方々や市民への「人生会議(ACP)」の普及啓発を目的として講演会を開催した。また、「医療と介護の安心マップ」の改訂版発行にも取り組んだ。
	令和5年度	・【令和4年度と同様】	(予定)	(予定)	(予定)
B 地域包括支援センターの認知度の向上・運営の充実	令和3年度	・地域包括支援センターが高齢者の総合相談窓口として認識できるよう支援する。	・広報「すみよし」掲載(年1回) ・介護保険事業や高齢者支援事業を通じての周知(適宜) ・地域包括支援センターの運営協議会(年3回)Web ・地域ケア会議への出席(適宜) ・地域包括支援センター連絡会に出席(月1回)	・包括支援センターを認識している 区民の割合:未測定(区民意識調査)	より多くの区民に、高齢者の総合相談窓口を知っていただき、活用いただくよう周知に努めている。包括支援センターの運営の充実や後方支援のため、コロナ禍の状況で、参加人数の多い会議はWebで、少人数の会議は感染対策を行い、対面で実施した。
	令和4年度	・【令和3年度と同様】	・広報「すみよし」掲載(年1回) ・介護保険事業や高齢者支援事業を通じての周知(適宜) ・地域包括支援センターの運営協議会(年3回) ・地域ケア会議への出席(適宜) ・地域包括支援センター連絡会に出席(月1回)	・地域包括支援センターについて 知っている と回答した区民の割合: 30%以上	より多くの区民に、高齢者の総合相談窓口を知っていただき、活用いただくよう周知に努めている。包括支援センターの運営の充実や後方支援のため、運営協議会の開催や地域ケア会議へ出席している。また、連絡会では、包括業務について、業務遂行やより良い取り組み、業務の標準化が行えるよう、区と包括間で話し合いを行っている。

		年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
				量的		質的
				アウトプット		
		令和5年度	・【令和4年度と同様】	(予定)		(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施を通じ活動・交流の場や新たな担い手が生まれている。</li> <li>・情報発信の一環として社協だより発行</li> <li>・協議体開催、コア会議の開催</li> <li>・活動の場づくり、交流の場の開発</li> <li>・ボランティア養成、啓発講座の開催</li> <li>・男性の社会参加促進支援</li> <li>・包括的支援事業(4事業)連携会議の定例開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コア会議実施 1回</li> <li>・1層協議体開催 1回(オンライン)</li> <li>・男性の社会参加促進</li> <li>「男性のための百歳体操」、「やろう会」の継続支援</li> <li>社会貢献活動「ハレ晴れ」新規立ち上げの活動支援</li> <li>・社協だよりに区内の銭湯MAPを掲載</li> <li>※銭湯にまつわるエピソード募集</li> <li>・社協だよりに区内のお散歩MAP掲載予定</li> <li>・第1層協議体会議開催1回(対面)</li> <li>・社会資源(新規立ち上げ3、拡充支援2、継続支援4)</li> <li>・男性の社会参加促進</li> <li>・活動の場づくり(コモンフルールでの交流会、大依羅神社での出張相談会)</li> <li>・社協ガーデン企画での園芸ボランティア支援</li> <li>・山之内地域スマホ相談室の開設(9月～)</li> <li>・第2層協議体会議開催(12地域)</li> <li>・園芸ボランティアの個人宅訪問スタート</li> <li>・社協だよりに区内のお散歩MAP掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での活動(感染対策及び外出の機会を増やす、テイクアウトプログラム、ICTの活用等)</li> <li>・区社協だよりへ保存版として情報提供『銭湯MAP』についての意見として(43名)“銭湯はたまに友達と行きます”“子どものころ毎日行ってました”“懐かしい、近所の銭湯に行ってきます”『お散歩(お花見)MAP』についての意見として(29名)“春休みに浅香中央公園に孫とお弁当を持って花見に行きます”“万代池、住吉公園、長居公園など自転車で運動がてら見に行きます”“コロナ禍なのでまだいきません”</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、1年間緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出をされていたが、ICTの活用、感染対策をおこない、担い手の発掘や活動の場づくりなど行えた。</li> <li>・コロナ禍での活動についてICTの活用、テイクアウトプログラム等工夫を凝らし事業継続した。また協議体会議についても感染対策を行い開催した。</li> <li>・社協だよりに高齢者食事サービス事業一覧掲載</li> <li>・社協だよりに区内の銭湯MAP掲載予定(協議体委員検討)</li> </ul>

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
C 生活支援コーディネーターによる地域福祉の活性化	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な主体と連携し、高齢者が主体的に健康づくりに取り組み、さまざまな機会での活躍できる地域。</li> <li>ICTの活用に向けて、老人クラブと連携して高齢者向けのスマホ教室を開催する。また大学や地域と連携して、高齢者の継続的なスマホの活用を支援する。（場づくりを含む）</li> <li>テイクアウトプログラムを継続実施し、新たな担い手の創出や設置個所の拡大を行う。</li> <li>生活支援コーディネーターのリーフレット作成やSNSの活用により、情報発信につとめる。</li> <li>男性の社会参加を促進するため、老人福祉センターと連携した企画を実施する。</li> <li>百歳体操など新たな活動の場の立ち上げ支援を行う。</li> </ul>	<p>【1月末】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>老人クラブに働きかけ、スマホ教室の開催支援を実施。7月より月1回実施中。7回</li> <li>山之内地域ではスマホ相談室を開設。（R3年の9月より継続支援）10回（1/20「男の健康太極拳」「3/30「ウェルネスダーツ」）</li> <li>百歳体操の立ち上げ支援を実施。（生根神社での百歳体操のお試し実施11/21、12/13）</li> <li>百歳体操の立ち上げ支援として、空きスペースの見学、情報提供など実施。</li> </ul>	<p>スマホ講座（5回）において、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「今回の講師の説明はわかりやすかったですか」との問いに、 ”わかりやすかった”の割合 83.3%</li> <li>”どちらかと言えばわかりやすかった”の割合 7.3%</li> <li>”どちらでもない”の割合 7.3%</li> <li>”どちらかと言えばわかりにくかった”の割合 0%</li> <li>”わかりにくかった”の割合 0%</li> <li>”無回答”の割合 2.1%</li> </ul> <p>・スマートフォン教室「再受講希望・内容の理解度」の問いに、 ”再受講希望”の割合 100%</p> <p>”内容の理解度”の割合 80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置こそ発出されなかったが、コロナ禍2年目ということもあり十分に感染対策を行い、様々な事業について予定どおり行えた。</li> <li>各地域の活動も少しずつ再開していく中活動への相談・支援を行えた。また、高齢者のフレイル予防を含む取り組みとして新たな居場所づくりができた。</li> <li>第2層生活支援コーディネーターが配置され2年目となり、各地域での活動について情報共有を目的に住吉区全地域合同での第2層協議体会議を開催した。</li> <li>テイクアウトプログラムを継続実施。資料作成をボランティアグループに依頼し、ボランティアグループの新たな活動づくりにもつながった。</li> <li>生活支援コーディネーターのリーフレットを9月に発行。</li> <li>広報誌「社協だより」にてSNSの活用等社協のICTの取り組みについて情報発信。</li> <li>老人福祉センターと男性の社会参加を働きかける企画実施。（1/20「男の健康太極拳」「3/30「ウェルネスダーツ」）</li> </ul>
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な主体と連携し、高齢者が主体的に健康づくりに取り組み、さまざまな機会での活躍できる地域。</li> <li>ICTの活用に向けて、老人クラブと連携して高齢者向けのスマホ教室を開催する。また大学や地域と連携して、高齢者の継続的なスマホの活用を支援する。（場づくりを含む）</li> <li>テイクアウトプログラムを継続実施し、新たな担い手の創出や設置個所の拡大を行う。</li> <li>生活支援コーディネーターのリーフレット作成やSNSの活用により、情報発信につとめる。</li> <li>男性の社会参加を促進するため、老人福祉センターと連携した企画を実施する。</li> <li>百歳体操など新たな活動の場の立ち上げ支援を行う。</li> </ul>	(予定)	(予定)	(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的		質的
			アウトプット		
② 社会福祉法人による公益的取り組み A 社会福祉施設連絡会との連携	令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉法人による公益的取り組みを地域につなげていけるよう社会福祉施設連絡会と連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉施設連絡会と連携、協力し、連絡会と公益的取り組みを支援する。</li> <li>社会福祉法人の協力のもと、子ども・若者育成支援事業からの自立に向けた緩やかな就労として、中間就労の受け入れをめざす。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、令和3年度内は緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発出されていたため、参集形式の研修会等の開催が難しく、人材育成の取り組みが実施されなかったが、令和4年4月9日・10日にガイドヘルパー養成講座が開催された。</li> <li>区の子ども・若者育成支援事業からの自立に向けた緩やかな就労先としての連携に向けて調整を進めている。</li> </ul>
	令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>【令和3年度と同様】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉施設連絡会と連携、協力し、連絡会と公益的取り組みを支援する。</li> <li>子ども・若者育成支援事業からの自立に向けた緩やかな就労として、中間就労の定着と更なる受け入れをめざす。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>「福祉を知る」をテーマに高校・大学生を対象に「福祉の職場見学ツアー」が令和4年8月5・6日で開催された。</li> <li>子ども若者育成支援事業からの中間就労について、2名が定着しており、引き続き連携を図っていく。</li> </ul>
	令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>【令和3年度と同様】</li> </ul>	(予定)		(予定)

	年度	ビジョンにおける理想の状態（到達目標）	実施成果		
			量的	質的	
				アウトプット	
③ ビジネス的手法の導入支援					
A CB/S B社会的 ビジネス化の 推進 〔計画〕	令和3年度	・区が関与したCB/SB起業件数及び社会的ビジネス化事業創出件数:3件以上	CB/SB創出件数:3件  【参考】 CB/SB実施件数:10件⇒13件 (内訳) ・コミュニティ回収事業:3件 ・区広報紙配布事業:4件⇒5件 ・放置自転車対策事業:3件 ・ペットボトル回収事業:0件⇒2件	—	地域活動協議会会長会での情報提供や未実施地域への働きかけを継続的に取り組むことで目標の件数を達成することができた。
	令和4年度	・区が関与したCB/SB起業件数及び社会的ビジネス化事業創出件数:1件以上	CB/SB創出件数:2件  【参考】 CB/SB実施件数:13件⇒15件 (内訳) ・コミュニティ回収事業:3件 ・区広報紙配布事業:5件 ・放置自転車対策事業:3件 ・ペットボトル回収事業:2件⇒4件	—	地域活動協議会会長会での情報提供や未実施地域への働きかけを継続的に取り組むことで目標の件数を達成することができた。
	令和5年度	・区が関与したCB/SB起業件数及び社会的ビジネス化事業創出件数:1件以上	(予定)		(予定)